安全データシート

SDS
Orange-Sol, Inc.

ディゾルビット コゲリムーバー

作成日　2026年7月1日

1 化学品及び会社情報

製品識別	ディゾルビット コゲリムーバー
商品コード	50900-200
製品の使用	焦げ、焼き付き油、炭化汚れ等の除去

SDS 作成先の詳細

会社名	輸入者
ORANGE-SOL	株式会社ドーイチ
Blending & Packaging	〒273-0005　千葉県船橋市本町1-9-11
1400 N. Fiesta Blvd., Bldg. 100	担当部門:海外事業部
Gilbert, AZ 85233-1000 USA	電話番号:047-431-1268
Toll Free 800-877-7771	
Tel: +1-480-497-8822	

発行部局: 製品安全部
緊急連絡先: Infotrac 800-535-5053

2 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	区分に該当しない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	金属腐食性化学品	区分1
健康に対する有害性	皮膚腐食性/刺激性	区分1
	目に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
	急性毒性(経口)	区分4
	急性毒性(吸入)	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	区分2
	発がん性	区分に該当しない
	生殖毒性	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2
	特定標的臓器毒性(復ばく露)	区分に該当しない
	吸引性呼吸器有害性	区分2
環境に対する有害性	水生環境有害性　短期(急性)	区分3
	水生環境有害性　長期(慢性)	区分に該当しない
	オゾン層へに有害性	分類できない

ディゾルビット コゲリムーバー

GHSラベル

この製品はGHSに従って分類、表示されている。





注意喚起語　危険

危険有害情報（Hコード）

H290 ： 金属を腐食するおそれ
H314 ： 重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷
H318 ： 重篤な眼の損傷
H371 ： 呼吸器系の損害のおそれ
H402 ： 水生生物に有害のおそれ

注意書き（Pコード）

【予防】

P260 ： ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
P264 ： 取り扱い後はよく手、顔、接触部位をよく洗うこと。
P270 ： この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
P273 ： 環境への放出を避けること。
P280 ： 保護手袋・保護眼鏡を着用すること。

【応急措置】

P301＋P312＋P331 ： 飲み込んだ場合 ： 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
P303＋P361＋P353 ： 皮膚又は髪に付着した場合 ： 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
P304＋P340 ： 吸入した場合 ： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305＋P351＋P338 ： 眼に入った場合 ：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズが容易に外せる場合は外す。
P310 ： 直ちに医師に連絡すること。
P363 ： 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

P405 ： 施錠して保管すること。
P406 ： 耐腐食性又は耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

【廃棄】

P501 ： 内容物・容器を地方自治体の規定に従って廃棄すること。

3 組成及び成分情報

労働安全衛生法施行令　第18条第3号及び第18条の2第3号の規定（2026年４月１日施行分）対応済

単一/混合物　混合物

成分

成分名/化学名	含有量 （wt%）	CAS No.	備考
オレンジオイル	非公開	8028-48-6	天然由来成分
水酸化ナトリウム	4.5	1310-73-2	5%以下の為劇物非該当
両性界面活性剤	非公開	非公開	
非イオン界面活性剤	非公開	非公開	
グリコール系溶剤	10　以下	非公開	洗浄助剤
可溶化剤	非公開	非公開	
水	残量	7732-18-5	

・上記以外の成分は、製品の危険有害性分類に大きく影響しない範囲で配合している。
・特定の化学的同一性及び正確な配合割合は営業秘密のため非公開とする。
・含有量合計値は企業秘密の為、およそ100%である。

4 応急措置

眼に入った場合	直ちに流水で15分以上注意深く洗浄する。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、 その後も洗浄を続ける。直ちに眼科医の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類、靴等を脱ぎ、付着部位を水で15分以上洗い流す。 痛み、発赤、刺激、薬傷がある場合は医師の診断を受ける。
吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 咳、のどの痛み、息苦しさ等がある場合、医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	口をすすぎ、無理に吐かせない。意識が無い場合、口から何も与えない。 直ちに医師又は中毒情報センターに連絡する。
急性症状及び遅発性症状	皮膚及び眼の薬傷、発赤、痛み、視力障害、咽頭痛、咳、腹痛、嘔吐等
応急措置をする者の保護	保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用し、救助者自身のばく露を避ける。

5 火災時の措置

適切な消火剤	本製品自体は水系で燃焼しにくい。 周辺火災に応じて、水噴霧、泡、粉末、二酸化炭素を使用する。
使ってはならない消火剤	特になし。ただし容器破損や飛散を招く強い直流水は避ける。
特有の危険有害性	加熱により腐食性又は刺激性のヒュームを発生するおそれ。 アルミニウム、亜鉛等の金属と反応し、可燃性の水素ガスを発生するおそれ。
消化を行う者の保護	自給式呼吸器、防火服、耐アルカリ性保護具を着用し、 風上から作業する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時の措置

一般的な措置	関連する国内及び国際法規を遵守すること。 皮膚・目・衣服との接触を避けること。
環境に対する予備措置	人に危険なく停止することが可能な場合漏れを止める。 周囲の発火源となる全てのものを取り除く。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	吸着剤（砂、珪藻土、酸バインダー、一般的なバインダー、おがくず）で吸着し、耐アルカリ性容器に回収する。 少量に場合は水で希釈し処理をする。
他の項目の参照	安全な取り扱いについては、7項目を参照。 個人的な保護装置については、8項目を参照。 廃棄については、13項目を参照。 床面が滑りやすくなるため転倒に注意する。

7 取り扱い及び保管上の注意

一般的な措置	蒸気の吸入や物質との接触を避けること。 換気が十分になされている場所でのみ使用すること。 取り扱い後は十分に手洗いをすること。
取り扱い上の注意	酸性洗浄剤、塩素系洗浄剤、アンモニウム塩、アルミニウム、亜鉛、すず等と混合しない。蒸気またはミストの吸入を避ける。 使用時は保護手袋、保護眼鏡、又は保護面を着用する。
安全な保管条件	容器を密閉し、直射日光、高温、凍結を避ける。 乾燥した換気の良い冷所（氷点以上）で保管。
安全な容器及び注意	酸、金属、酸化剤、アンモニウム容器、亜鉛メッキ容器との接触を避ける。 容器を横倒し又は逆さにしない。

8 暴露防止及び保護措置

設備対策	必要に応じて局所排気装置、全体換気装置、洗顔設備、緊急シャワーを設置。
許容濃度（日本産業衛生学会）	水酸化ナトリウムとして、ACGIH TLV-C2mg/m³。最大許容濃度2mg/m³。
呼吸用保護具	ミスト又はスプレーが発生する場合、適切な防じん・防適ミスト対応の呼吸保護具を使用する。
手の保護具	耐アルカリ性保護手袋（ニトリル、ネオプレン、PVC等）
眼・顔面の保護具	密閉型保護眼鏡、必要に応じて保護面。
皮膚及び身体の保護具	耐薬品性保護具、不浸透性前掛け、保護長靴等
衛生対策	取り扱い後は、手、顔、接触部位をよく洗う。 作業中の飲食、喫煙を避ける。

9 物理的及び化学性質

物理的状態	液体
形状	データなし
色	淡橙色
臭い	オレンジ臭、かすかな溶剤臭
pH値	13.7
沸点、初留点、沸騰範囲	約100℃以上（水系）
引火点	該当しない
可燃性	該当しない
自然発火温度	データなし
蒸気圧	データなし
水に対する溶解性	可溶又は分散
密度又は相対密度（比重）	約1.01～1.04（20℃、推定）
その他のデータ	情報なし

10 安定性及び反応性

反応性	強アルカリ性。酸と中和反応し発熱する。 アルミニウム、亜鉛、すず等の金属と反応し、水素ガスを発生するおそれ、
化学的安定性	安定
危険有害反応可能性	酸性洗浄剤、塩素系洗浄剤、アンモニウム塩、酸化剤、反応性金属との接触で発熱、ガス発生、腐食のおそれ。
避けるべき条件	高温、直射日光、凍結、酸との混合、金属との長時間接触。
混解危険物質	酸、酸化剤、アルミニウム、亜鉛、すず、銅、真鍮、アンモニウム塩 ハロゲン化物等
危険有害な分解生成物	加熱分解により一酸化炭素、二酸化炭素、刺激性ガス ナトリウム酸化物等を発生するおそれ。

11 有害性の情報

急性毒性	製品として試験データなし。成分情報から分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	強アルカリ性及び水酸化ナトリウム含有により、区分1。 重篤な皮膚の薬傷を引き起こすおそれ。
眼に対する重篤な損傷または刺激性	強アルカリ性及び水酸化ナトリウム含有により、区分1。 重篤な眼の損傷を引き起こすおそれ。
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	水酸化ナトリウムの情報により、ミスト、スプレー吸入時に呼吸器への影響のおそれ
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データなし
誤えん有害性	データなし

12 環境影響情報

・漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。
　特に製品や洗浄水が、地面や川、排水溝に直接流れないようにすること。

水性環境有害性（急性）	データなし
水性環境有害性（長期間）	データなし
生態毒性	製品としての試験データなし。水酸化ナトリウムはpH変化により水生生物に影響を与える可能性がある。 ラウラミンオキシド等の界面活性剤を含有するため、大量放出を避ける。
残留性・分解性	製品としての試験データなし。 界面活性剤の一部は生分解性を有する可能性がある。
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
移動性	大気。水域、土壌に移動する恐れあり
その他の情報	この製品を廃水や水流、そして土壌中にながさないこと。

13 廃棄上の注意

推奨廃棄方法	内容物や容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。
残余廃棄物	委託処理を行う場合は、都道府県知事の許可を受けた 専門の産業廃棄物処理業者と契約すること。 排水する場合は、pHを適正に中和し、下水道法、水道汚濁防止法、 自治体条例等を遵守する。
汚染容器及び包装	許可を受けた産業廃棄物処理業者よ委託契約をして処理をする。

14 輸送上の注意

国際規制	航空輸送は、IATA及び海上輸送はIMDGの規則に従う。
国連番号	UN1824
品名	水酸化ナトリウム溶液
国連分類	クラス8 （腐食性物質）
容器等級	Ⅲ （推定。輸送形態、pH、腐食性試験結果により最終判断）
海洋汚染物質	該当しない
MARPOL73/78付属書Ⅱ及びOBCコードによるばら積み輸送	該当しない
国内規制	船舶安全法、航空法、道路法等の該当規定に従う。
輸送上の注意	容器の破損、漏れ、転倒、落下、荷崩れを防止する。 直射日光、高温を避ける。 酸性物質、金属類、食品、飼料と混載しない。 容器を密栓し、耐アルカリ性容器を使用する。

15 適用法令

労働安全衛生法	水酸化ナトリウムを含有。 名称等を表示・通知すべき危険物、リスクアセスメント対象物、 皮膚等障害化学物質に該当。
毒物及び劇物取締法	水酸化ナトリウム4.5%配合であり、5%以下の為劇物非該当と判断。 ただし、配合誤差、濃縮、ロットのばらつきにより 5%を超えないように管理すること。
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	現時点の配合情報では該当性要確認。 ラミンオキシド、グリコール系溶剤、可溶化剤の具体的名および含有率により 再判定すること。
消防法	水系製品として非該当。 ただし、グリコール系溶剤の含有率及び引火点により再判定すること。
水質汚濁防止法	水酸化ナトリウムはpH及びアルカリ性排水として管理が必要。
船舶安全法/航空法	腐食性物質に該当する可能性。 輸送条件により確認すること。
廃棄物処理法	廃棄時は産業廃棄物として適正処理すること。

16 その他の情報

記載内容は当社の最善な調査に基づいて作成しておりますが、記載データや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性が有りえるため、取り扱いには細心の注意が必要です。
ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定してくださるようお願いします。
また、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上ご使用ください。